

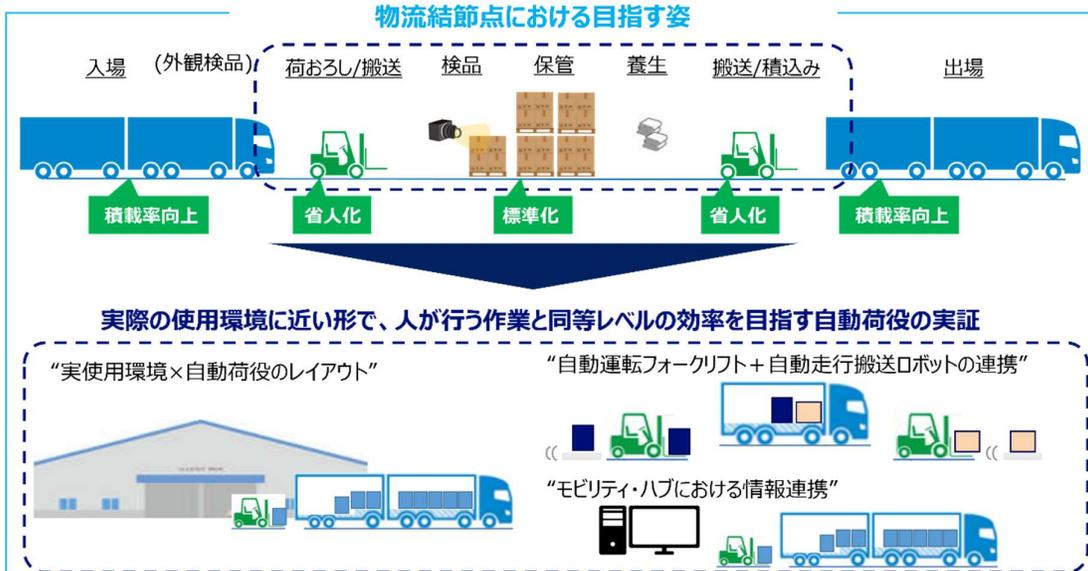
**ドライバー不足だけじゃない！ 荷役作業者不足対策に挑む
「人が行う作業と同等の効率を目指す 荷役自動化の実証開始」
経済産業省による令和 6 年度「無人自動運転等の CASE 対応に向けた実証・支援事業（物流 MaaS の実現に向けた研究開発・実証事業）」における実証事業者に選定
—省人化、環境負荷低減、働き方改革の実現に向け、物流 2024 年問題の先を見据えた高効率輸送を目指した取り組みを加速—**

NEXT Logistics Japan 株式会社（本社：東京都新宿区、社長：梅村幸生、以下 NLJ）は、経済産業省が実施する令和 6 年度「無人自動運転等の CASE^{*1} 対応に向けた実証・支援事業（物流 MaaS^{*2} の実現に向けた研究開発・実証事業）」の実施団体に選出され、将来の自動クロスドック（結節点）運用に向け、自動荷役の効率化を目指した実証、ならびにモビリティ・ハブ^{*3}における情報連携を目指して課題の抽出を行います。

NLJ は物流 2024 年問題をはじめとした「モノが運べなくなる」という社会課題の解決に向け、荷主や物流事業者、その他関連企業とともに、高効率輸送スキームの構築を推進しています。このスキームでは、業種業態を超えたさまざまな荷主企業から積み替え拠点であるクロスドックに持ち込まれた荷物を混載することで高効率の輸送を実現しています。今回の実証では、その工程で行われる荷下ろし・荷積み作業の自動運用（自動荷役）の効率化や、モビリティ・ハブでの情報連携を通じた省人化、環境負荷の低減、そして働き方改革の実現を目指しています。

NLJ では一昨年より、実際の荷役作業において、自律走行搬送ロボット（株式会社アイシン提供）と自動運転フォークリフト（株式会社豊田自動織機提供）の連携による自動化の実装を推進してまいりました。本年度は、さらに人が行う作業と同等の効率化、また情報連携を目指し、10 月より実証を行ってまいります。

【物流結節点における目指す姿】



■実施概要

- ✓ 自動運転フォークリフトと自律走行搬送ロボットを連携させ、荷下ろし/荷積み作業のレイアウトや機器連携方法を見直し、データ取得と評価
- ✓ モビリティ・ハブにおける情報連携について、協調が可能な領域の抽出と検証

■各社の役割

- **株式会社アイシン**
 - ・自律走行搬送ロボットの提供
- **株式会社豊田自動織機**
 - ・自動運転フォークリフトの提供
- **NEXT Logistics Japan 株式会社**
 - ・実証の要件定義
 - ・実証場所、機器(車両等)の提供
 - ・自動運転フォークリフトと自律走行搬送ロボットの機器間連携
 - ・実証効果測定・取り纏め

※1 CASE(C=Connected (つながる)、A=Autonomous (自動運転)、S=Shared (シェアリング)、E=Electric (電動化))自動車の次世代技術やサービスの新たな潮流を表す
※2 MaaS(Mobility as a Service =IT 技術を使って公共交通機関同士をシームレスに連携、人々が便利で効率的に利用できるようにする仕組み)を活用し、物流業界が抱える人手不足や長時間労働等の課題解決を目指す取り組み
※3 自動運転車やドローンといったモビリティがヒト・モノの乗換・積替、モビリティの充電・駐車を行うハブとなる集約的な拠点
(デジタルライフライン全国総合整備計画2024年6月より)

<お問い合わせ先>

NEXT Logistics Japan 株式会社 経営企画本部 経営企画・管理 Div. TEL:03-6911-1691

以上